

やつおもて

第7号 (2015年4月)
編集発行：和田公民館
協力：公民館運営推進委員
電話：(45-1918)
eメール:wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区 いろいろ見て歩く記～

は～るよ来い、あ～るきはじめた
は～やく来い、みよちゃんが～



皆さんこんにちは。いかがお過ごしでしょうか。春は卒業、入学、就職、引越などとおあわただしい季節です。たくさんの別れと出会いの季節でもあります。一期一会という言葉もあります。いい出会いになるように頑張りよう～！！(つぬ)

和田地区の歴史コーナー

今回は新塚古墳群と生塚古墳について紹介します。

《新塚古墳群》

ハッ表古墳群のある尾根と谷を隔てて向かい合った尾根上に新塚、さらにまた一谷を隔てた向こうの尾根に生塚古墳がある。三者は一直線に並び、共に尾根の山頂より少し下った南斜面にある。本郷朝日の屋号新塚宅の裏山にある四基を新塚古墳という。昭和29年ごろ、小、中学生が小土器一個を発見したというが現存しない。南面の松林中にあり、自然地形を利用した横穴墳出1・2号墳を見ると入り口は南面している。



つぬちゃんです！

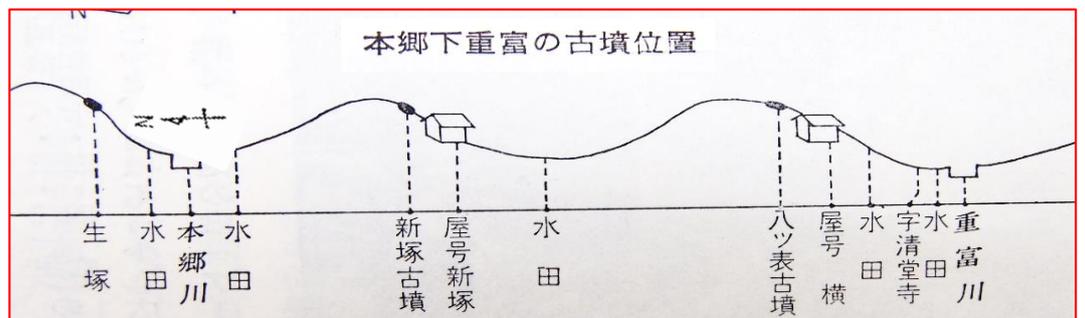
- ・1号墳は山頂稜線より20m下方の斜面にある横穴式石室。
- ・2号墳は1号墳より10m下方の斜面にあり横穴式石室の円墳。
- ・3号墳は1号墳より斜め下方30mにあり円墳、横穴式石室。
- ・4号墳は3号墳より西、百数十メートル、標高差十数メートルの下方にあたる。全く墳丘の形を留めず伝承と散在する転石によって発掘跡を推定されるだけである。

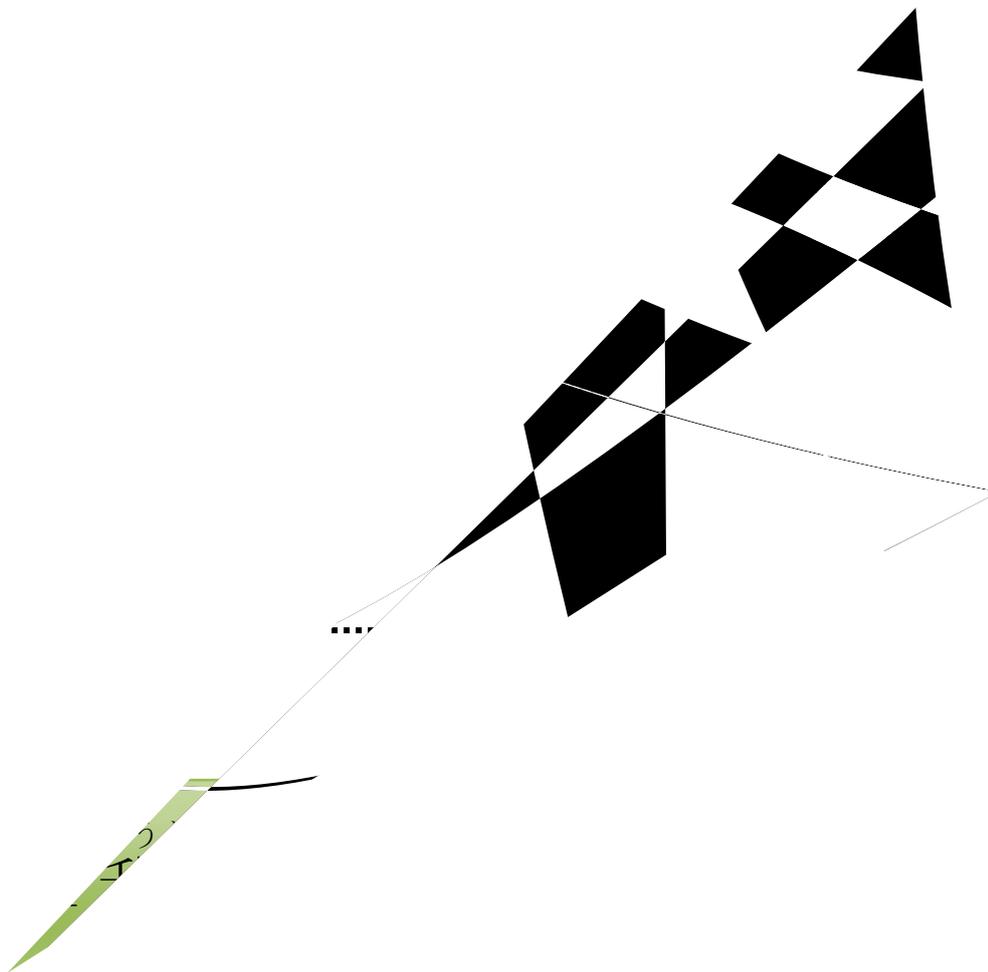
《生塚古墳》

本郷朝日の松林中にあり、地名と伝承、及び二個の転石(てんせき)があるだけである。転石のある山林は字名をイカツカといい、新塚と共に火塚の伝承をもつ。

(旭町誌・旭町埋蔵文化財調査報告4より)

※火塚とは？ 昔、火の雨が降った際、塚の中に避難したといういわれからこの名がついたと伝えられる





前回に続いて淵の言い伝えについて紹介しよう。

栃谷橋の上から下流に向かって見れば岩がそびえ立ち檜の木が生い茂りいかにも



ドジョウ 昔から俗に「ウナギ一匹、ドジョウ一匹」とも言われ、わずか1匹でウナギ1匹分に匹敵するほどの高い栄養価を得られる食材とされている

神秘的な淵がある。この淵を「金屋子（かなやご）淵」と読んでいる。

県道田所国府線のなかった時代の往来は栃政宅の前から川に沿って山を下り高い岩の上を通過して高岩（たかいわ）淵の下流方向へと往還があった。この道の淵の上あたりが非常



フナ 色素変異を起こして体色が赤色となったものをヒブナとよび、キンギョはヒブナをさらに品種改良したものである

に危険であったため金屋子大神を祭り通行の安全を祈願されていたと言われている。

又、金屋子とは栃政宅の裏山にたたら（精錬所）があり、たたらを守り神として祭られていたのが金屋子大神とも言われその下

にある神秘的な淵を金屋子淵と名づけられたとの事である。

岩畳方面から戸川に行く途中の現在の新戸川橋の下にあった橋が流出した時には金屋子淵の上を通過して戸川に来た記憶がある。近年では冬時期におしどりが金屋子淵に飛来し県道を通る人の目を楽しませている。（文 榎本泰弘）





つめちゃんの募集コーナー



あなたの、私の、好きな



花・はな・フラワー



をお知らせください！

今年もやってきました、花の季節！あちこちに咲いた花を見ると心がウキウキ～ルンルン～気分になってきますね～ 昨年は桜の花を募集しました。たくさんのご応募ありがとうございました。

今年は、**地区内の桜以外の花の写真**を募集します。自薦、他薦を問いません。きれいだな～と思ったら写真にパチリ！または公民館までご一報をよろしくお願いします。締め切りは、6月5日です。

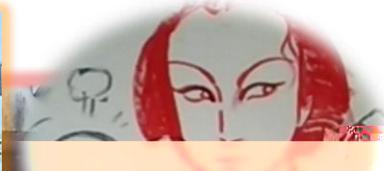
たくさんのお知らせお待ちしております～す！！



次は～つめちゃんのこんなのやりましたコーナー～

1月30日（土）に旧和田公民館解体に伴うお別れイベントを行いました。

長い間、和田保育所、和田公民館とお世話になった建屋に感謝の気持ちを込めてペインティングで飾りお別れをしました。あいにくの悪天候で参加者は少なかったのですが、参加した人は思いを込めて描いておられました。作品の一部をご紹介しますね。



あ と が き

先日、まちづくり講演会に行ってきました。講師は島根大学名誉教授の有馬毅一郎先生でした。お話の中で「田舎暮らしの、田舎知らず」と言うことがありました。これを聞いて、小学生の時の授業を思い出しました。「友達の良い所を見つけて発表しましょう」という内容です。自分では気がつかなくても人が見ると良いところがたくさんあります。田舎の暮らしも高齢化、人口減少、それに伴うさまざまな困りごとと悪いことが目に付いてしまいがちですが、田舎暮らしにも何か良いことがあるはず。良いことを作っていけるはず。どんなことが出来るかみんなチャレンジしてみたいですね！（美）